

私の「同級生」

愛知県 名古屋市立鶴舞小学校 4年
田村 早樹子

タイムマシンがあったらなあ。私はよくそう思う。どうしてかという、タイムマシンがあったら、数日前に食べたおいしいおかしも、ごはんももう一度食べられるからだ。でも、もっと昔に行ってみたらどうだろう。昔の子ども達と話せたら…。もし話せるのならば、私は、どういうマンガがはやっていたか、何をして遊んでいたのかということなどを聞きたい。

今年の一学期、国語の教科書にのっていた『白いぼうし』を音読していたら、それを聞いたお母さんが

「その話、どこかで聞いたことあるな。あっ、思い出した。お母さんも小学生のころに習ったような気がするなあ。」

と言った。お母さん達の小学生のころの国語の教科書に『白いぼうし』がのっていたそう。お話の中で夏みかんのいいにおいがするところをよく覚えているとお母さんは言っていた。他にも習ったお話があるかと聞いてみると、『大きなかぶ』も、『ごんぎつね』ものっていたそう。私はそれを聞いて同じ話がお母さんの子どものころからのっているのは信じられないと思った。また、お母さんが勉強しているすがたなんてそうぞうできないなと思った。

図書室で、クラスの子と同じ本を自由に読む時は、その話の登場人物のまねをしたり、おもしろかった所を言い合ったりするのがとても楽しい。でも、教科書で読み合う時も、めあてにそっていろいろなことを考えながらその話を読むことができるので楽しい。私は、今学校の国語で『一つの花』についていろいろ話し合いをしている。さっき、お母さんが勉強しているすがたなんてそうぞうできないと書いたけど、私はお母さんもこういうふうにし話し合いをしていたんだな、と思った。そこで、お母さんに、お母さんは小学四年生の時に『白いぼうし』に出てくる女の子はもんしろちょうだと思ったか聞いてみた。お母さんも、私と同じく、

「もんしろちょうだと思ったよ。」

と言っていた。小学四年生のお母さんと意見のこうかんをしたみたいだった。それは、タイムマシンに乗らなくても、昔の子ども達と話し合えるということだ。

私は、他の教科でもタイムスリップができるのかもしれないと思った。また、私はこれから、五年生、六年生のお母さんにも会いに行けるんだな、と思った。そして、私が大人になった時に、教科書を通じてその時の子ども達と意見のこうかんができるといいと思った。

私にとって、教科書は、昔と今を行ったりきたりできるタイムマシンだ。このタイムマシンがあれば、どんどん私の同級生はふえていく。